

国土交通省 「加工食品分野における物流標準化アクションプラン第3回フォローアップ会」資料

# 「納品伝票エコシステム」の進捗について

ウイングアーク1st株式会社

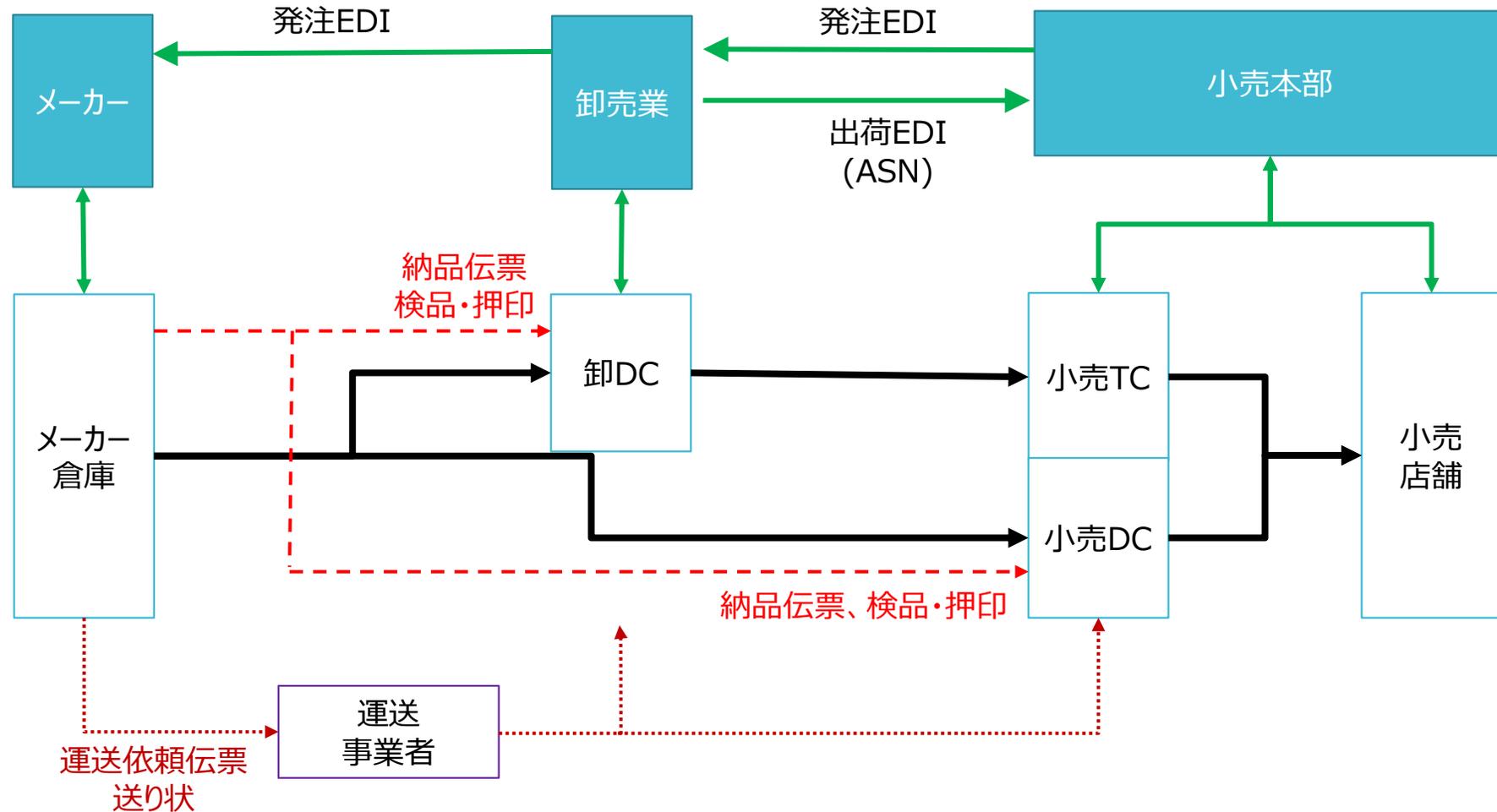
富士通株式会社

公益財団法人流通経済研究所

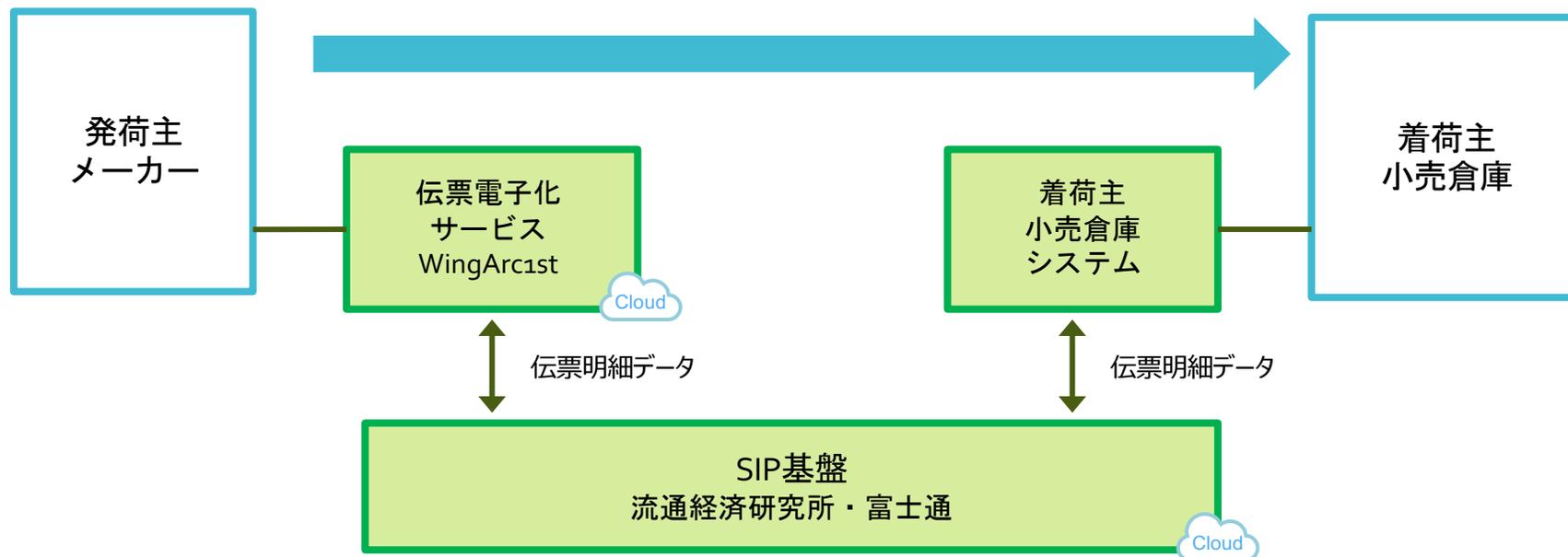
**2023.10.23**

# 製・配・販の物流オペレーションにおけるデータ・伝票利用の現状

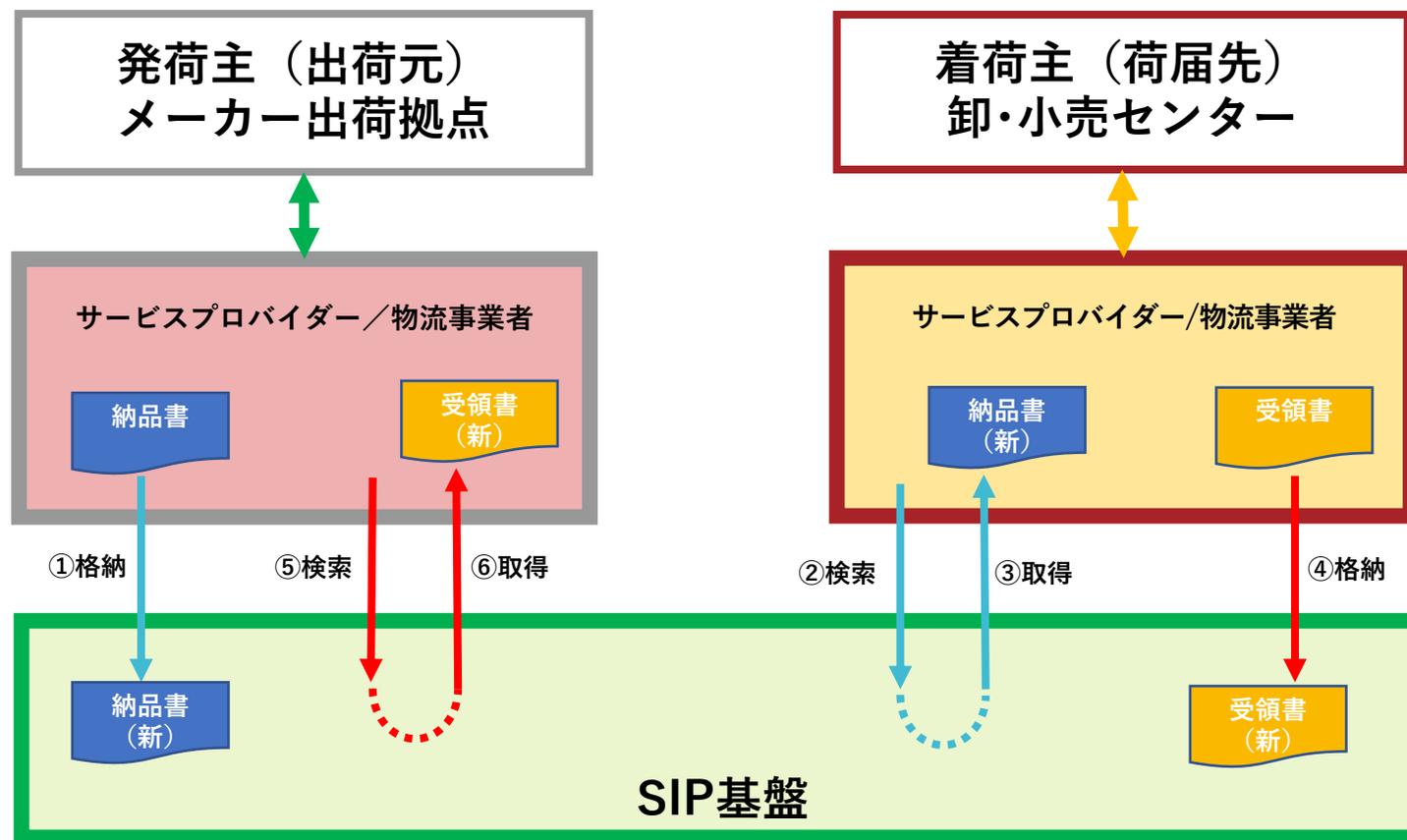
- 出荷EDI（ASN）は卸売業・小売業間では普及しているが、メーカー・卸売業では、納品伝票での検品・押印が行われている。運送事業者への運送依頼・完了報告も多くは伝票。
- 納品伝票の電子化、それに基づく検品レス、運送依頼・パレット受払データ等の連携が課題。



- 発荷主（メーカー）、着荷主（小売倉庫）による、異なるシステム間での実納品と対応した伝票明細データ連携をクラウドサービスを活用して検証。
- クラウドサービスには、SIP基盤（流通経済研究所・富士通）、伝票電子化サービス（WingArc1st）を活用。
- 伝票明細データは、納品伝票明細と合わせて「車両情報」「GTIN（JANコード）」「賞味期限」をSIP基盤にて流通。
- SIP基盤の活用範囲を拡大し、荷届先、伝票明細などをSIP物流標準ガイドラインに基づいて標準化。
- 実施日：2023.11～12

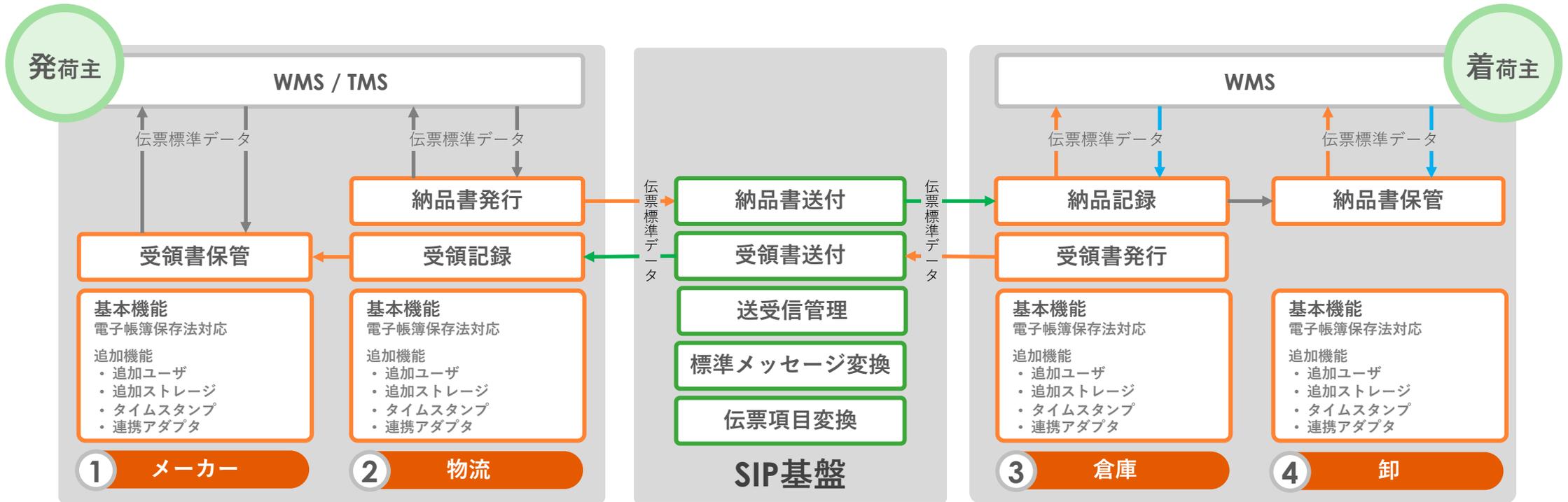


- 発荷主、着荷主はそれぞれ自社が使っているサービスプロバイダー（伝票電子化サービス）を活用。
- サービスプロバイダーは、SIP基盤を介して納品書、受領書の送受信を行う。
- SIP基盤は送信先に合わせが納品書(新)、受領書(新)を準備して、サービスプロバイダーによる検索、取得を可能にする。



# 納品伝票エコシステム 受益者負担の考え方

- メーカー、物流、倉庫、卸などが必要な機能や情報を選んで活用する受益者負担を推進。



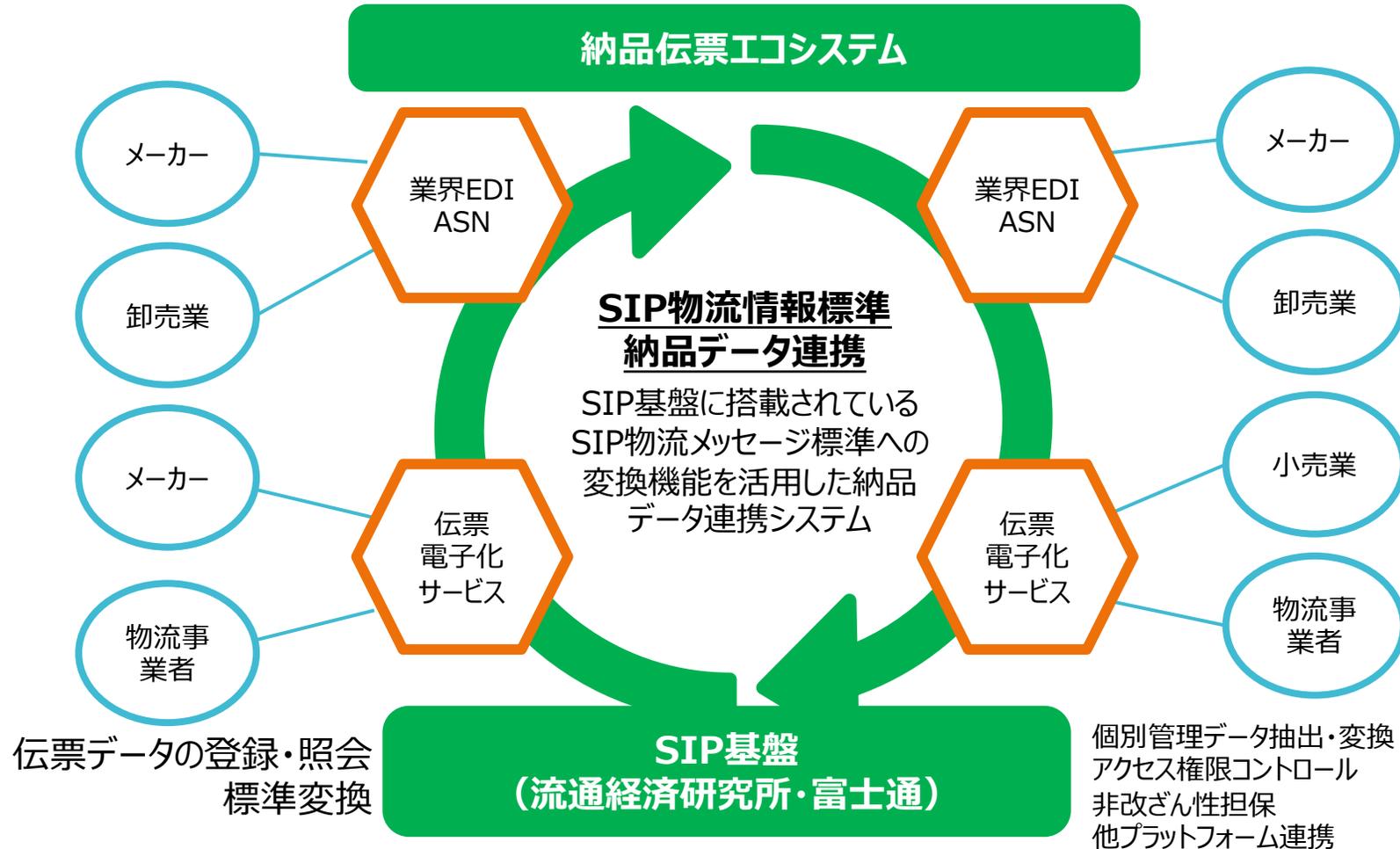
伝票電子化サービス (納品伝票エコシステム、SIP基盤による標準仕様に対応)

## 納品伝票エコシステム

(凡例)   ・ ・ SIP基盤による提供機能   ・ ・ 伝票電子化サービスプロバイダによる提供機能 (例)

# 納品伝票エコシステム 社会実装の方向性

- SIP基盤に、伝票ID（キー情報）の登録・参照、標準メッセージ変換機能を実装。
- 製・配・販の荷主事業者、委託先物流事業者が、サービスプロバイダが異なっても納品データを連携するサービス提供



END